# 中山道間の宿　新加納
# まちづくり会かわら版

第１３号
平成２８年
６月１日
発　行
新加納まちづくり会
会長　小島秀俊

各務原市の第二期整備事業（五ヶ年）が始まり、平成二十八年四月、待望の中山道赤のれん前～濃川間の道路改良工事が完成。車道の幅５ｍ、中央の白線を取り除き、歩道を拡幅、横断歩道前には朱色の舗装、老人や子供等歩行者に優しい道路になりました。

中山道（濃川）

中山道（赤のれん前）

## 今後の事業予定

（一）今尾医院南～少林寺参道の道路整備。（４２９号線）
（二）名鉄新加納駅前～新田町歩道橋まで通学路整備（４２２号線）

## 浅野各務原市長へ要望

平成二十七年十二月二日（水）
・「各務原市の第二期事業」について早期着工のお願い。
・「町屋館」（仮称）の整備　について
ほか、要望しました。

「市長要望」　新加納まちづくり会
新加納自治会・土地区画整理組合

## 第6回　歴史講座開催！

【米野の戦い＆新加納砦】　平成 27 年 12 月 5 日(土)

講師　笠松町文化協会　会長
「米野の戦い」著者　高橋恒美氏

美濃の国岐阜城制圧をめざす、徳川家康（東軍）の福島隊、池田隊と岐阜城主織田信長亡き後、秀信との戦いで家康軍が勝利。不落の岐阜城も一六〇〇年八月、秀信が降伏し遂に岐阜城も落城。織田家は滅亡した！

木曽川を血に染めた米野の戦いは、家康の天下取り一六〇〇年九月「関ヶ原の合戦」の前哨戦でした。

講師　歴史研究会
会長　間宮美一氏

新加納砦　（武功夜話より）

戦国時代、織田信長は桶狭間の戦いで今川義元を討取り。念願の尾張の国（岩倉城・犬山城落城）を統一。

更に、天下取りをめざして美濃の国稲葉城攻略へ、木曽川渡河の戦い！

坪内党は、平島から新加納へ木材を運び馬柵、新加納に取り出を築く。稲葉山と城下町の火は、三日三晩続き「新加納砦」に来た信長は、美濃国制覇にご機嫌がよかった。

日吉のかえるお菓子

新加納地域の安全、安心＆美しい町づくりをめざして　～ボランティア活動実施中！～
参加者募集！　参加できる方は、新加納まちづくり会まで お願いします。

新加納駅前（ケロット広場）防犯パトロール！

本部
ふれあいセンター

・防犯パトロール隊
新加納地内を四地区に分け四隊で編成。毎月四回、防犯パトロール実施中！住民を見守る活動実施。（会員　四十二名）
設立　平成二十七年四月一日

新加納駅前（ケロット広場）

中山道（一里塚跡）

・パークレンジャー及びビューレンジャー
毎月二回、駅前ケロット広場と一里塚跡の清掃活動実施中！
新加納地内の違反広告物取り締まり、毎月二回、美化活動も実施。（会員　十二名）
設立　平成二十六年四月一日

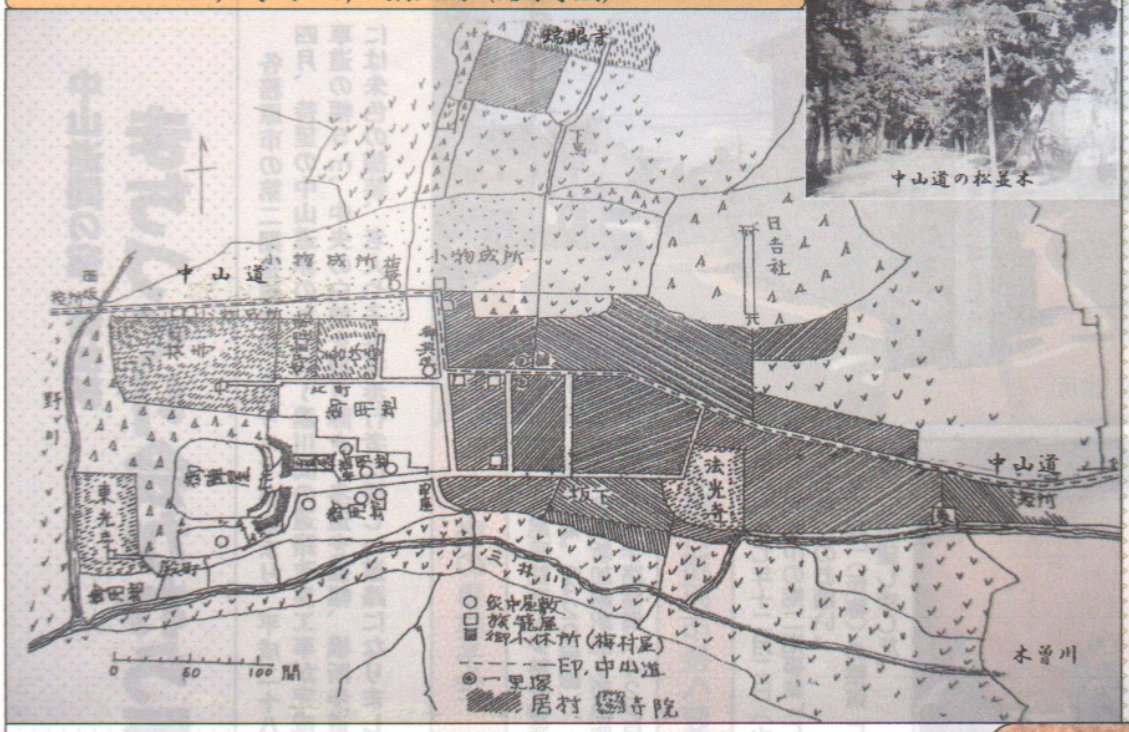
お知らせ　～中山道間の宿～　新加納まちづくり会のホームページ【アクセス　http://shinkano.main.jp 】をお楽しみください。

読みきり　新加納立場地区

# まめ歴史事典

中山道の松並木

江戸時代の新加納絵図（瑞眼寺蔵）




## 「旗本陣屋のある間の宿」について

～日本建築学会　講演資料より～

講師　正会員　橋本　敬治郎氏

**～間の宿～新加納は、西国大名への徳川幕府の軍営基地か？**

慶長五年（一六〇〇）関ヶ原の戦い。

一六〇三年　家康征夷大将軍に着任。

一六一四・五年「大阪冬夏の陣」家康勝利。

徳川幕府は、中山道を日本の支配と軍事的な交通の要衝として、宿場整備などを進める一方、西国大名への備えとして、沿線に有力な旗本と大名を配置した。

慶長七年（一六〇二）中山道開通。

新加納は、中世から木曽川、長良川、揖斐川やその派川の集中した地形から、東西の軍事上の重要拠点と位置づけられてきた。

承久の変、新加納の戦いなど。

「美濃を制する者は、天下を制す」と京を目指し、戦乱の世が続いた。

新加納は、各務原台地の西端に位置し、木曽川を控えた氾濫原が広がり、岐阜城も眺望できる軍事上重要な地域であった。

**新加納の持つ地形上の特性と江戸と京を結ぶ重要な街道。中山道に持たせた江戸防衛計画の中における軍事上の重要拠点の一つ！**

新加納の北は、美濃山地が岐阜から赤坂、垂井へと連なり、養老山系を経て伊勢湾まで延びている。

日本の大河川木曽川が、新加納の南で幾多の派川に分かれ、その本流は新加納の南、今の三井川辺りを流れていた。

美濃山地に囲まれた中（古代の伊勢の海）は、境川、長良川、鳥羽川、伊自良川、根尾川、揖斐川といった大河の氾濫地域であった。

一五八六年　木曽川大洪水。

木曽川の左岸に到達した大軍は、その先の進軍の困難さとルートの確保に恐怖さえ覚えたであろう。

それはまた、江戸に幕府を開いた徳川家にとって、関ヶ原の戦いで敗北した西軍の有力大名の動向は、最大の関心事であった。

そして江戸に向かう、反乱勢力の不測の事態に備えていた。

**新加納陣屋の構築と「旗本坪内氏」による立場、新加納のまちづくり**

慶長六年（一六〇一）初代坪内利定は、各務原台地の西端小高い場所の新加納に「旗本坪内陣屋」を築き、知行支配した。

中山道が村内を東西に通り、南の木曽川、西から北へ回り込む野川は外堀の役目をなしていた。

陣屋は、竹林の中に隠れ少林寺、善休寺、東光寺の古刹が周辺で、守りの役目を果たしていた。

村の北の備えとして、瑞眼寺、東の要に法光寺がおかれ四方を寺社で囲み、強固な砦「小城下町」の様相を呈していた。

中山道は防備の常道として、中心で桝形に曲がり高札場を設置。

農民・工商人の住まいは、陣屋から離れた中山道沿いに設けた。

さらに三叉路・梯子状の小道は、遠望遮断を考慮して造られた。

旗本坪内氏の陣屋へは、中山道から容易に近づけない工夫がなされていた。…（完）